

3

ウズベキスタン

シルクロードの真ん中に位置し要衝の地として栄えたウズベキスタンは、世界遺産の宝庫といわれています。首都タシケントから南西 270km に位置し、「人々が出会う場所」という意味のサマルカンドは文明の十字路として 2001（平成 13）年に世界遺産に登録されました。また、サマルカンドと並ぶ中心都市であり、古代よりシルクロードの重要拠点であったブハラはザラフシャン川下流域のオアシス都市です。

第二次世界大戦後、多くの日本人が生活していたウズベキスタンは、親日の方が多いことで知られています。2019（令和元）年 11 月、ウズベキスタンの文化大臣が東京藝術大学を訪れたことを機に、同国の貴重な文化遺産をスーパークローン文化財として再現し活用するプロジェクトがスタートしました。

第 3 章では、サマルカンドのアフラシヤブ遺跡の「外国使節の間」壁画と、ブハラの北西にあるワラフシャ遺跡宮殿址「赤の間」の壁画の復元作品を紹介いたします。これらの壁画はウズベキスタンにとって大変貴重な文化遺産であり、国外にたやすく持ち出すことができません。そのため、スーパークローン文化財により国内での保存と、国外での展示を両立することが可能となるでしょう。



アフラシヤブ博物館